

## 六 古 毛

下流の羽ノ浦、今津・平島、立江、坂野の旧五か村、二千五百二十ヘクタールを灌漑し、年間一万石余を増収する。主な幹線水路は、「坂野幹線水路」、古庄・岩脇の境の明治橋付近の「水位調整配水樋門」から北流し、観音山の東を坂野天神付近に至る。水路の長さは約七百五十六メートルにおよぶ。延長千五百七十八メートル、途中三か所の調整樋門がある。「立江線水路」坂野幹線から浦川分水樋門に分かれ、宮倉・中村の南を流れ立江町向山や柳瀬に向う。延長三千三百七十二メートルである。

## 八 古毛の圃場整備事業

昭和五十一年(一九七六)度農林省の農村総合モデル事業として、古毛地区十三・七ヘクタールの圃場整備事業がおこなわれた。関係農家は五十八戸、総事業費五千六百六十一万円で、昭和五十二年(一九七七)三月に竣工した。



国営北岸用水碑

長年間(二五九六～二六二五)すでに原始的な杭や柵の井堰があった。」と記している。その後伝承によると、「明和年間(二七四〇～二七五二)に広瀬用水の堰が築かれ、大井出堰とともに現羽ノ浦町一帯を潤した。昭和二十三年(一九四八)農林省は直営事業として、北岸用水開さくに着手し、昭和三十年(一九五五)一月、八年の歳月をかけて完成した。

この用水路は、四億五千万円の巨費と、近代科学の粋を集めて造られ、平水時には、毎秒百二十三立方メートル以内、出水時には、八百三十五立方メートルを取水し、

## 七 北岸用水工事

那賀川橋北詰から堤防上を約三、五キロメートル上ると、那賀川北岸全体を潤す北岸用水の取水塔がある。

この川水の取入口の道端にある御影石みかげいしの大きな石碑は、高さ四メートル余りで、表には「国営北岸用水碑」と書かれ、裏面には「慶



取水塔